



三
世
一

土岐文庫
文庫17
W45
2



文庫 17
W45
2

万葉集卷二之標

相聞

難波高津宮 ○皇后思天皇御哥

近江大津宮 ○天皇賜鏡女王御製哥

○鏡女王贈オホオミ内大臣哥

○内大臣娶安見兒哥

○昂女ウラハ和哥

○禪師更詠哥

○郎女ウラハ和哥

明日香清御石宮 ○賜藤原夫人御製哥

○夫人奉和哥

新宮之穴

昭和六十年二月一日
土岐善唐氏寄贈

010185195045

藤原宮

○大^{オホ}伯^{ウチノ}皇女御哥 大津皇子下
伊執時

○郎女奉和哥

○日^{ヒナメシ}並^シ知^ニ皇^{ミコノ}子^{ミコト}尊^{ミコト}賜^ミ石^{イシ}川^{カハ}郎^ノ女^メ御^ミ哥

○姬王奉和哥

○但^タ馬^マ皇^{ミコ}女^メ接^ツ穗^ホ積^ツ皇^{ミコ}子^ノ事^{コト}形^{カタ}後^{ノチ}御^ミ哥

○但^タ馬^マ皇^{ミコ}女^メ思^シ穗^ホ積^ツ皇^{ミコ}子^ノ御^ミ哥

○郎女奉和哥

○三^ミ方^{カタ}沙^サ弥^ヤ娶^{ムス}園^ヰ臣^{ミコト}生^ナ羽^ハ之^ノ女^メ後^{ノチ}作^ス哥

○沙^サ弥^ヤ更^マ詠^{ウタ}哥

○田^タ主^ヌ和^ニ哥

○大^{オホ}津^ツ皇^{ミコ}子^ノ贈^{タテマツ}石^{イシ}川^{カハ}郎^ノ女^メ御^ミ哥

○大^{オホ}津^ツ皇^{ミコ}子^ノ婚^{ユメ}石^{イシ}川^{カハ}郎^ノ女^メ御^ミ哥 通古
露之

○弓^{ユミ}削^キ皇^{ミコ}子^ノ贈^{タテマツ}額^{カシ}田^ノ姬^メ王^ノ御^ミ哥 幸吉
野時

○後^{ノチ}吉^{キチ}野^ノ遣^ツ羅^ラ生^ナ松^{マツ}柯^カ時^{トキ}額^{カシ}田^ノ姬^メ王^ノ奉^{ムス}入^ル哥 ガエラ

○穗^ホ積^ツ皇^{ミコ}子^ノ遣^ツ志^シ賀^カ山^{ヤマ}宇^ウ時^{トキ}但^タ馬^マ皇^{ミコ}女^メ御^ミ哥 御哥

○舍^ト人^リ皇^{ミコ}子^ノ贈^{タテマツ}舍^ト人^リ郎^ノ女^メ御^ミ哥

○弓^{ユミ}削^キ皇^{ミコ}子^ノ思^シ紀^キ皇^{ミコ}女^メ御^ミ哥 四

○生^ナ羽^ハ之^ノ女^メ和^ニ哥

○石^{イシ}川^{カハ}郎^ノ女^メ贈^{タテマツ}大^{オホ}伴^{トモ}田^タ主^ヌ哥

○郎^ノ女^メ更^マ贈^{タテマツ}哥

○石^{イシ}川^{カハ}郎^ノ女^メ贈^{タテマツ}大^{オホ}伴^{トモ}奈^ナ万^{マン}呂^リ哥

○柿^{カキ}本^ノ人^{ヒト}万^{マン}呂^リ從^{ヨリ}石^{イシ}見^ミ國^{クニ}別^{ワケ}妻^メ上^ノ哥 長
四

カキミツノメ
挽哥

○後^{ノチ}園^ヰ本^ノ宮^{ミヤ}有^ア馬^{ウマ}皇^{ミコ}子^ノ結^{ムス}松^{マツ}枝^エ御^ミ哥

○山^{ヤマ}上^ノ憶^{オモ}良^カ追^ツ和^ニ哥 オモカフスル

○近^{チカ}天^{アメ}津^ツ宮^{ミヤ}天^{アメ}皇^{ミコ}不^フ豫^ヨ時^{トキ}皇^{ミコ}后^ノ奉^{ムス}御^ミ哥 ニヤヒマス

○婦^メ人^{ヒト}哥

○大^{オホ}后^ノ御^ミ哥

○從^{ヨリ}山^{ヤマ}科^カ御^ミ陵^{リョウ}退^ヒ散^ル時^{トキ}額^{カシ}田^ノ姬^メ王^ノ御^ミ哥 ニカリカスル

明^{アカ}皇^{ミコ}清^{スミ}御^ミ原^{ハラ}宮^{ミヤ}

○十^ト市^シ皇^{ミコ}女^メ薨^{ナゲ}死^シ時^{トキ}高^{タカ}市^シ皇^{ミコ}子^ノ尊^{ミコト}往^{ユク}哥 スキマフ

○長^{ナガ}皇^{ミコ}子^ノ與^{ヨリ}皇^{ミコ}弟^ノ御^ミ哥

○柿^{カキ}本^ノ人^{ヒト}万^{マン}呂^リ妻^メ 依羅雅
郎女
與
人
万
呂
別
哥

○長^{ナガ}意^イ吉^{キチ}万^{マン}呂^リ見^ミ結^{ムス}松^{マツ}哥

天皇崩時大后御哥

○大^{オホ}殯^{ウツ}時^{トキ}哥 オホウツカリ

○石^{イシ}川^{カハ}夫^ウ人^{ヒト}哥

○天皇山朋時太后御哥

△二書哥

△夢唱賜御哥

藤原宮 ○大來皇女從伊勢上時御哥

○移葦大津皇子時大來皇女御哥

○日並知皇子尊殯時柿本人麻呂哥

△五本哥

○同殯時舍人等哥

○柿本人麻呂獻泊瀨部皇女哥

○柿本人麻呂獻忍坂部皇子哥

○高市皇子尊殯時柿本人麻呂

○高市皇子尊殯時捨限女玉哥

○但馬皇女薨後穗積皇

△弓削皇子薨時置始東人哥

△短哥

○柿本人麻呂所竊通娘子死後作哥

○同人妻死時哥

○吉備津采女死時同人哥

○狹岑島視死人同人哥

○同人在石見國臨死時哥

○妻依四維娘子哥

○丹比真人擬人麻呂哥

○同人擬依羅娘子哥

○河邊官人見孃子屍哥

○志貴皇子薨時姓名哥

○志貴皇子薨後姓名哥

靈龜二年

この書は、八類取寄材にて、後のうらやま依て、後の人此書名を如へり、うらやま
今際まで、下は近江大津宮の御宇と大后との事なり。臣の大臣大綱を、うらやまを
あることを、
うらやまを、
うらやまを、

又、この君之行言長成、如く、うらやまを奉る、うらやまを、うらやまを、
經大后女の侍、うらやまを、うらやまを、
人、うらやまを、うらやまを、
記、うらやまを、うらやまを、

如此許戀作不有者

如く、この許戀作、不有者、
く、この許戀作、不有者、
物を、この許戀作、不有者、
高山之磐根四卷手
死物矣

高山之磐根四卷手

死太麻

在世菅裳君乎者將待、
打麻非吾里髮、
○白、○萬

代日

今本、
ま、
ま、
ま、

秋之田穗上小霧相朝霞

秋、
何、
何、
何、

我戀將息

我、
△、
の、

近江大津宮御宇天皇代

○天皇賜鏡女王御制衣哥

製、
額、

或本、
君、
波、
尔、
文、
君、
打、
尔、
家、
我、

後、
女、

目吾孤悲念乎メアハコヒモフヲ

明日香清御原宮御宇天皇代

○天皇賜藤原夫人御製哥ミヤドコヨミホミウタ 紀よ藤原内大臣の女氷上娘まゝ姉五百重娘

藤原夫人ミヤドコヨミ 古本より一は人の秋をてしめしは死も返へり

吾里尔大雪落有ワカサトニオホユキフレル 大原乃古尔之郷尔落卷者後ワカサトニオホユキフレル 大原乃古尔之郷尔落卷者後大原乃古尔之郷尔落卷者後

藤原夫人奉和哥藤原夫人 幸の娘をさるるをいふ御原の御宇天皇代大原乃古尔之郷尔落卷者後

藤原夫人奉和哥

吾崗之於可美尔言而令落ワカガハノオカミニイヒテ 彼所尔塵家武キナキナガツチナシラミキダト

藤原宮御宇天皇代

○大津皇子竊下於伊勢神宮上來時大伯皇女御作哥オホツチノミコニシテ 田皇女天智天皇 御作哥御作哥

吾執力枯乎ワガセコヲヒ 倭邊遣登依夜深而雞鳴露ワタノエノミチノサトハヤト

尔吾立所露之ワガタキヌレシノ 如何君之獨越武イカチカキミガヒトリコエナム

二人行杵去過難寸秋山乎フタリユケドユキスガガタキ 如何君之獨越武如何君之獨越武

別記あり

○大津皇子贈石川郎女御哥。
オホツノミコノヲオカシタテ

足日本乃山之四付二
オホニホノノヤマノシヅクニニ 滴之四のイモツトヨカチヌレノシヅクニニ
妹待跡吾立所沾山之四附二
イモツトヨカチヌレノシヅクニニ

石川郎女奉和哥。

吾子待跡君之沾計武足日本能山之四附二成益物采
アラニツトキミガヌレケムアヒキノノシヅクニニオハラニモヲ 皇女の侍
皇女の侍

口々のゆきやうにやびいし相しむまきあはれりてつぎ
あまれ上つ代下つ代をおりいばす短ちのけりやあーかき

○大津皇子竊姫石川郎女時津守連通
オホツノミコノニシメヒメヒメニ 占雷其事皇子御作哥
ツモリノムラシ 占雷其事皇子御作哥
イハレノコト

賜りてはたふかくもそよそよ
いさへを占ちあはれりてつぎ日翻のつとも侍を賜へりてつぎ
ぬめ日翻のつとも侍を賜へりてつぎ日翻のつとも侍を賜へりてつぎ

大船之辞津守之占尔将告登波益為尔知而
オホフネノハジツモリガウラニ 大船之辞津守之占尔将告登波益為尔知而
オホフネノハジツモリガウラニ

我二人宿之
ワタシニヒトノヤド 我二人宿之
ワタシニヒトノヤド

○日並知皇子尊
ヒナノシラニコノミコト 今本知の字は天の皇子
賜石川郎女御哥
オホツノミコノニシメヒメヒメニ

大名兒
オホナゴエ 末のウラチカダノベニカルカヤノツカアヒガモノワガフスレノヤノ東間ハ
彼方野邊尔刈草乃東間毛吾忘目ハ一握の
ツノノサヲ

額田姫王御哥
イニシヒノコアルトリカモユヅルハノノニ 額田姫王御哥
イニシヒノコアルトリカモユヅルハノノニ

古尔戀流真鴨弓絃葉乃三井能上後
イニシヒノコアルトリカモユヅルハノノニ 古尔戀流真鴨弓絃葉乃三井能上後
イニシヒノコアルトリカモユヅルハノノニ

鳴渡遊久
ナキワリユク 鳴渡遊久
ナキワリユク

一本又目錄ノ女
郎守曰大ノ見
也ト後ヤリコハ
ヒヤノ言カテ
おつて云へん
よまの女
あかめて大名見
ち名婦名兄ス
大名持と名を
もてりぬ
やん古へあ

今本知の字は天の皇子
賜石川郎女御哥
今本知の字は天の皇子
賜石川郎女御哥

不法師より
んんんんん

遺居而戀管不有者ハ言列オトカニ追及武紀ノ皇后の簡峰の宮ハカセ

夜奉伊辭雜之雜ハ言列オトカニ道之阿回介標結吾執山崎ハカセ

○但馬皇女在高市皇子宫時シメテミエラ竊接穗積皇子事コト既形而後

御作哥ヨシマフ 繁美許知痛美已母世尔ハガセ

人事子トコト 未渡朝川渡ウツリカハワタ

舍人皇子トコト 天武天皇の皇子トコト

御哥ミカ

丈夫哉片戀將為跡嘆友トコト

鬼乃益ト雄オニノタケトヲ

戀二家里コヒニケリ

舍人娘子奉和哥イラツガ

歡管丈夫之戀亂許曾ナゲキツ

吾髮結乃ミカモト

又白子の席オシロイ

つづ言そそのか
林の中は省直
護る人
他天々
今よつハ
名もハ
例ハ
伊乳母
おのつ
後世人
賤さ
又白子の席

御作哥
人事子
舍人皇子
御哥
丈夫哉片戀將為跡嘆友
鬼乃益ト雄
戀二家里
舍人娘子奉和哥
歡管丈夫之戀亂許曾
吾髮結乃
又白子の席

今本捲入し
今本捲入し
今本捲入し
今本捲入し

妹之髮比來不見
妹之髮比來不見
妹之髮比來不見
妹之髮比來不見

人皆者今波長跡多計登雖言
人皆者今波長跡多計登雖言
人皆者今波長跡多計登雖言
人皆者今波長跡多計登雖言

師髮亂者等母
師髮亂者等母
師髮亂者等母
師髮亂者等母

橋之陰履路乃
橋之陰履路乃
橋之陰履路乃
橋之陰履路乃

妹亦不相而
妹亦不相而
妹亦不相而
妹亦不相而

石川郎女贈大侍宿祿田主哥

遊士跡吾者聞流乎
遊士跡吾者聞流乎
遊士跡吾者聞流乎
遊士跡吾者聞流乎

屋戸不借吾乎還利於曾能風流士
屋戸不借吾乎還利於曾能風流士
屋戸不借吾乎還利於曾能風流士
屋戸不借吾乎還利於曾能風流士

情もほろろを
情もほろろを
情もほろろを
情もほろろを

卷十五
はなれ言
かーつり
奉てたふ故
未女之作
女トハ

右ノカガ
橋之陰履路乃
東市之殖木乃
木足た

女の
女の
女の
女の

八衢
八衢
八衢
八衢

いと
いと
いと
いと

物予曾念
物予曾念
物予曾念
物予曾念

人
人
人
人

諸丈夫等集
諸丈夫等集
諸丈夫等集
諸丈夫等集

後
後
後
後

遊士跡
遊士跡
遊士跡
遊士跡

裁
裁
裁
裁

裁男
裁男
裁男
裁男

推
推
推
推

屋戸不借
屋戸不借
屋戸不借
屋戸不借

情
情
情
情

情もほろろ
情もほろろ
情もほろろ
情もほろろ

言
言
言
言

遊士跡
遊士跡
遊士跡
遊士跡

後
後
後
後

後を遊士
後を遊士
後を遊士
後を遊士

裁
裁
裁
裁

裁男
裁男
裁男
裁男

推
推
推
推

屋戸不借
屋戸不借
屋戸不借
屋戸不借

情
情
情
情

情もほろろ
情もほろろ
情もほろろ
情もほろろ

人万石の妻の...
別記...
くさくさの女...
こころの痛事...
ふわりとす。

登。今本遊を送る... 戀痛吾弟...
訓ハセテセリセハ...
言ハス。紀... 集... 列...
け... 言... の... び...
言... 山... 越...

柿本朝臣人麻呂。從石見國別妻上來時作哥。
九月の末十月初... 仍ては... 黄... の...
九月の末十月初... 仍ては... 黄... の...
九月の末十月初... 仍ては... 黄... の...

石見乃海。紀... 角乃浦回乎。
賀郡都農... 浦無芋...
賀郡都農... 浦無芋...
賀郡都農... 浦無芋...

無友。縦畫屋師。酒者無靴。
下... 鯨魚取... 海邊乎指而...
下... 鯨魚取... 海邊乎指而...
下... 鯨魚取... 海邊乎指而...

人社見良目。能咲ハ師。
浦者...
浦者...
浦者...

香青在。在を今...
玉藻息津藻。玉藻息津藻...
玉藻息津藻...
玉藻息津藻...

明末者。浪已曾來依。夕羽振浪社來縁。
風已曾來依... 夕羽振浪社來縁...
風已曾來依... 夕羽振浪社來縁...
風已曾來依... 夕羽振浪社來縁...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

今本下の流...
流...
流...
流...

は初々海とそし
後山

拾遺書集あふけ
ちのこすうの歴に
あるんあ記る。

挽哥の字ハ借て
ちのこすうの歴に
あるんあ記る。

少くも入らばせし程多しとゆく程多しとてまうふ右のきよはいつ
△反奇
石見之海打歌○山乃木際後下ハち同しけ歌ハ假字もて次ノ角津乃の
字あり上ノ反奇もてむし今なよつと山と別一人とてん

○柿本朝臣人麻呂妻依羅娘予与人麻呂相別時作哥（右の假
ようて又

石見へり付あよまらる妻のあまをいひわめりよつ付る人の妹がうりうり
うんととてあまをいひわめりよつ付る人の妹がうりうり
別記の人まらる妻の
後山

○勿念跡君者雖言相時何時跡知而加害不徳有年

挽哥
ちのこすうの歴に
あるんあ記る。

後山本宮御宇天白美代

○有間皇子自傷結松枝御作哥（此は徳河信倉持麻呂女小足娘生有馬皇
子とてゆふと齊明天皇四年十月天を記

伊の牟漏の湯へ幸あり付ばをささむきまらるる松の枝を結ひて死す
の候も所食まわら付ね松を結ひて苦みの度まらるる松の枝を結ひて死す

伊ハシロノ既ハマツガエヲヒキムスビマサキクアラバ（幸くして上
草枕 冠

磐石白乃濱松之枝引結真幸有者（亦還見武
うりうりあ

アハシノヤトおぼ
ヤリガ悲一き

家有者哥余盛飯予（昔ハ和名抄よかかと訓ついと女の飯者ハ
草枕 冠

旅余之有者椎之葉余盛（今も松の葉をわらなす松の葉をわらなす
草枕 冠

○長忌寸意吉麻呂見結松哀咽作哥（ま吉麻呂ハ文武天皇の御時
の人よていと及のきまらる

るの次でもていと載る下の人まらる死時のうりうり
丹治直入がきをこた載る勤く真人ハ人まらると同付らるるやうな
ちのこすうの歴に
あるんあ記る。

元宗天皇紀
詠你播伊比尤
倍母理
ケハ丸節
魂祭式
一合云云即盛
勸哥

漢より岸へ
野の野
ハ和ハ云々
ハハハハハハ
ハハハハハハ

磐代乃岸之松枝将結人者反而復將見鴨

磐代乃野中亦立有結松情毛不解

山上臣憶良追和作哥

鳥翔成

知松者知良武

近江大津宮御宇天皇代

今辛丑幸紀伊國時云云
嗚へ強り
ハハハハハハ

○天皇聖躬不豫之時皇后

天和二十二年九月十日大津病ありけり十二月十日崩りて十一月十日葬りて十一月十日入物也

天原振放見者大王乃御壽者長久天足有

賀欲布跡羽目介者雖視直介不相香裳

青旗乃小旗能上予

天皇崩時太后御作哥

賀欲布跡羽目介者雖視直介不相香裳

賀欲布跡羽目介者雖視直介不相香裳

或妙小常陸風土記
ハハハハハハ
ハハハハハハ

かゝりて
悲し。

反哥

久堅乃天見如久仰見之皇子乃御門之荒卷情毛

高市郡橋の

島宮の御門にてその舎人等がそとに御門の外の御下にて市をさす
殞の府人百品の御門の令をひきかきしる人百名昂舎人としてその守り所

門とす

西刺辞日者鑑照有鳥玉之辞夜渡月之隱良久惜毛

西刺辞日者鑑照有鳥玉之辞夜渡月之隱良久惜毛

の皇子その御門の御下にてそとに御門の外の御下にて市をさす
とを強しき言のそとに御門の外の御下にて市をさす

△或本云以伴哥為後皇子尊
子とす。殞宮之時反哥。

天哉天の御門
て三年ふびみこ
はさるひそのゆ
と年大后八侍住
まわす

△又或本哥一首

島宮勾乃池之放鳥人目介戀而池介不澁

鳥宮の御門の池の放鳥人目介戀而池介不澁

の皇子その御門の御下にてそとに御門の外の御下にて市をさす
とを強しき言のそとに御門の外の御下にて市をさす

○皇子尊宮舎人等慟傷作哥

皇子尊宮舎人等慟傷作哥。この右の長哥よつぎて同し
人々分番して宿直しる人々その御門の外の御下にて市をさす
太岡の御門の御下にてそとに御門の外の御下にて市をさす

高光 我日皇子乃
ヨロツヨニクニシラサマシ

島宮婆母
天地と昔より住り念

折渡しをすれど、石橋イシハシ生麻ナマ留玉ルビ藻毛モ叙シ

生有ナマ猶ナ花ハ乃ナとあるは、絶者生流人の心は、打橋生

平鳥ヒラトリ礼留レヒル鳥トリの毛モは、川藻毛叙干

者波ナミ由流ユル一段イチダンの毛モは、何然毛言へぬ、下の忘賜ワシタマヒ

吾王ミカド乃ナ立者タチモノ立タチをあらわす、玉藻之如許呂卧者ロウゴセモノ

川藻カハシ之如ノトシ久キウ靡相ヒカヒ之ノ如ノ許ヨ呂卧者ロウゴセモノ

朝宮チウキウ于ニ忘賜ワシタマヒ哉ヤ夕宮セキキウ于ニ背賜セキタマヒ哉ヤ

宇都ウツ曾臣ソウジン跡念アトネン之時ノトキ顯アハる身ミは、秋来

花折ハナサリ挿頭サシカシ杖立タテタテ者モノか、春部者

敷妙シキマウ之ノ辞シ袖推スエミ又マタ去サの浪ナミ黄葉ワウエフ挿頭サシカシ

鏡成キョウジヤウ雖見スレドミ不モ厭ツキ三サン五ゴ月ツキ之ノ益トク目メ頰ツラ涂ツ所トコロ念ネン之ノ

君與キミト時々トキトキ幸而コトニ遊賜ユウタマヒ之ノ御食ミケ向ムカ

木キ髓ヅ之ノ官クワン卒ソツ常トコ宮ミヤ跡アト定サダメ賜タマヒ味アジ津ツ相サハ辞シ目メ辭シ毛モ絶タ奴ヌ

所トコロ已イ乎ヤ之ノ毛モ今イマ本ホ然シカ者モノ朝アサ鳥トリ

宿ヤド兄ケイ鳥トリ之ノ辞シ片カタ戀コイ為ナリ朝アサ鳥トリ

來キ為キ君キミ之ノ復ナツクサ草クサ乃ナ念ネン之ノ暮ク而シテ夕ユフ星ツバ之ノ辭シ彼カニ往キ

此コノ去サ足タラシ小コ大オホ船フネ辭シ猶タ豫ユ不ズ定サダメ見ミ者モノ遣オモヒ問ヒ流ル

情コノ毛モ不ズ在ズ四シ肢シ夫フ君キミ之ノ悲カミ我ワ其ソノ故コト為ナリ便ツラシ知シ之ノ也ヤ

今イマ大オホ會カイ人ニン之ノ所トコロ

音耳母名耳毛不
音耳母名耳毛不
音耳母名耳毛不

天地之弥遠長久思將徃
御名介
御名介

懸世流明日香河及萬代早布屋師
吾王乃
吾王乃

此焉
此焉

言
言

反哥

明日香川四我良美渡之塞益者進留水母能杼尔賀有萬

思
思

明日香川明日谷將見等念香毛
念香毛

吾王御名忘世奴
一本不所

念八方
念八方

高市皇子尊

朱鳥三年四月日並知皇子尊の薨去りて後よびるるを
太子よ五孫い

城上殯宮之時
式よ陵ハ廣瀬

柿本朝臣人麻呂作哥
柿本朝臣人麻呂作哥

挂文忌之伎鴨
挂文忌之伎鴨

今本よ云由
今本よ云由

母
母

古今才集
古今才集

念八方
念八方

念八方
念八方

念八方
念八方

念八方
念八方

念八方
念八方

念八方
念八方

念八方
念八方

念八方
念八方

念八方
念八方

今九十九歳もの
風里の西北二十
町あり五條解
つ所ありと云ふ
陸のりも天鼓
持統二天を合セ
舞まらむ陸は
なり。
○神依杖跡は神進
とあるなりと云ひ
るせるべしと云
ふことなり。

綾介畏伎アスカノカミ既ス明日香乃アスカノ真神マカミ之

原介ハラノもろろ下七句天鼓天鼓の陸のりも先ころ、そころ、明日香のてし神の系

原介ハラノと云ふことなり。ハ大内てつ所なり。式よ、持隈大内陸と云ふハ明日香

賜而カミナリ上座カミイマス也ナリもついなり。神依杖跡カミササト船名フネナ隱座カクレマス八隅ヤツマツ知之チ吾大王乃オノオホノミコ。

所聞見為キコシメ北月友乃國之キツトモノクニノ。北月友乃國之キツトモノクニノ。大内てつ所なり。

真木立マキタテ出デ不破山越而フツクサノケリ。多木の山北月面キツトモノ。

拍劍ウツリ和射ワガシ見我原乃ミガハラノ郡ノ行宮介安母理座而ユキミヤノアモリマス。

天下拂賜而テンカハヒカミナリ。天下と食國ハ同ドウ。

賜芋カミイモ鳥之鳴トリノナリ吾妻乃國之御軍士オノメノクニノミツリノシ。

人乎和為跡ヒトナリハセト。人乎和為跡ヒトナリハセト。次の言は並べやハセと云ふことなり。

千般石破チヒヤンシツカ。千般石破チヒヤンシツカ。冠辞もいらいやある人々も其方

不奉仕フホウジ。不奉仕フホウジ。今本治跡イマホンチ。

皇子掃部ミコノハラト。皇子掃部ミコノハラト。今本治跡イマホンチ。

皇子隨ミコノツグ。皇子隨ミコノツグ。今本治跡イマホンチ。

任賜者ニカミシヤ。任賜者ニカミシヤ。今本治跡イマホンチ。

任賜者ニカミシヤ。任賜者ニカミシヤ。今本治跡イマホンチ。

任賜者ニカミシヤ。任賜者ニカミシヤ。今本治跡イマホンチ。

任賜者ニカミシヤ。任賜者ニカミシヤ。今本治跡イマホンチ。

あんなに女よ
 久堅乃天宮尔 神隨神等座者
 其子霜文尔恐美
 晝波毛日之盡夜羽毛夜之盡卧居雖嘆
 飽不足香裳

これハ古言と云ふに
 けい言と畧きて
 よ入へ
 老よハ
 ろろろ

五哥

王者神西座者天雲之

隠賜奴
 皇者神西座者天雲之
 皇者神西座者天雲之
 皇者神西座者天雲之
 皇者神西座者天雲之

柿本朝臣人麻呂

柿本朝臣人麻呂妻死之後泣血哀慟作哥二首并短哥
 所竊通娘于死之時悲傷作哥
 死之時泣血哀慟作哥二首并短哥

人まらの妻妾の
 次のもろやいおは
 こころふけ二虎
 二ハやうとを焼

去年見而之秋乃月夜者テラレド或本アヒミシ相見之妹者イハトシカ弥年放或本

離。○つゆ乃死イハつゆ乃死

の秋乃あつちるり。

袈道子引手乃山介イモヲオキ 或本袈路引出山イモヲオキ 春日の内イモヲオキ 妹乎置

而山徃徃者生跡毛無イモヲオキ 或本山路念介イモヲオキ

△今本よ或本哥とて長哥一首短哥三首を合筆せん今ハ異る言のを
本文のその言の下よ少中してちうつ。よくち此本或本一仄而座者く
乱れ中のうちを或人それとて引れてませど別て文天竺の四年三月は好て
及眼を火葬せし居してんも火葬して仄よりりも座をわらうとてハあ
やまうりを船とて人まふせとて火葬して古へも今もやがて骨を掘りて
てんき所よとて墓とすあをば互あハ葬のゆる年此秋まわていよ
めりなりをいひめぐり秋まども骨を納りて捨たせりてせんうハ又此妻の死
父まらのまど若きほしとのとおろしうあれかの通明の火葬しりあならんぞ
おかしらうよてそ仄の字を誤とす付はるも本文のまきん初て珠蚌仄
谷毛見而不坐者イモヲオキとてつんを字をさしりてハ如ては字をさす

まは集るんハよく考
てこそはるまてん

家來而吾屋平見音吾ハ一書イモヲオキ 玉床之イモヲオキ 卷七夕乃方玉床乎并
拂とてハさうさうそとて人まら

の妻ハ似つづぶらわさハ死て外ホカニキナリ 外向來妹木枕イモヲオキ 玉床之
の羽易の山は妻ハいづうさ
つうし床なれば玉床のまらじ

はのうにいひしんてふりうれんがうまの妻をよのめり外やあはとて云つ
かへりまてんればいづう床の塵のわて枕ハわてんやあはれてるめりこをえ
らんハ魂

まは集るんハよく考
てこそはるまてん

○去年死て葬りしつづの秋まども床の枕とてまらうとてあんとてはは
つらうとてちよんてへ一日とて上まらうとて古ハ人死て一周のらむりの秋
床よとてまらわればつづのりゆらればけを妻を床ハ又り秋まやうてつら
えりるる旅り人のなを床の夢よあやましけれは旅とてかこころこと
とて夢をたしつづとて古事記の集りもとてあはれは依てはあとの河あ
る子とて平野の葬てつづのらむの夜床母其良無とてあはれをむつとて
ふらうとてつづとてつづとてつづとてつづとてつづとてつづとてつづとて
侍とて床のらつづとてつづとてつづとてつづとてつづとてつづとてつづとて

古事記 大島
女乃侍 舟お
古事記 大島
女乃侍 舟お
古事記 大島
女乃侍 舟お

一人の通して
死す所の方
母安夜麻知之

此三つ内ト云々... 母安夜麻知之

吉備津系女死時柿本朝臣人麻呂作哥。

秋山下部留妹... 下部留ハ妻也

冠辞考ナユタケ... 奈用竹乃

何方尔念居可... 梓紘之辞

露已曾婆朝尔置而夕者消等言... 霧已曾婆夕立而

明者失等言... 梓弓音聞吾母

事悔敷平布枘乃手枕纏而劔刀

身一副寐價半若草辞其孀子者

不怜弥可念而寐良武悔弥可念德良武

過去子等我朝露乃如也夕露乃如也

互哥

樂浪之志我津子等何

道をり... 紀元永手大臣の薨時乃詔

太比余念而平... 罷止富良須倍之

川瀬道見者不怜毛

天數辞凡津子之相日於保尔見敷者

もは後よべい山の
うねるよふくこと
つる地のなもあけ
こころを操り

一本谷亦交而
あれいよを答
のいふんを文
いふんをいふ
りうんのまも
りうんを

氏多治丹
丹比丹治丹
あまのちり
りうんをいふ

一人の口ハ表も宮の
まもるまもる
良宮よふくこと
こころをいふ

次も死しちしハ六位七位なる人
こころをいふ

鴨山之イハナシ磐根之卷有シヨク吾子鴨不知等妹之シラカモトイモガノサハ

待マツ作將有ツクサツラム

柿本朝臣人麻呂死時妻依羅娘子作哥カミカヒトヤヨサミライラツネ

且今日且今日吾待君者石水ワカニキミハシカガツ貝亦交而カヒニシリチコ

有登不言八方アリトイハズヤモ

直相者相不勝タビ石川亦雲立渡礼見イシカハニクモツチワタシ

丹比真人タニヒマコト擬柿本朝臣人麻呂之意作カミカヒトヤノイ

荒浪亦縁來玉子枕亦卷アラナニヨセルルタマコマキ吾此間有跡ワココナリト

哥カ今中こ報哥イマナカニヒラカヒ報ヒラカヒ云クニ所トコロ也ナリ

誰將告タレサツケ故々人コトコトノヒト

擬柿本朝臣人麻呂妻之意作哥カミカヒトヤノイ

有者生刀毛無アリバイケリトモナシ

天離夷之荒野尔君子置アマガハルヒナノアラノニキミヲオキ而念シテ

妻依羅娘子イラツネ仍ナラニ今本イマノホン或本アルホン之哥ノカ云クニ古本コノホン之哥ノカ云クニ

今本イマノホン之寧樂宮ニヤラクノミヤと標シラベ也ナリ和銅三年ワツトウノミヤトシの遷都ウツリノミヤ也ナリ

和銅四年ワツトウノミヤトシ 辛亥イハヒノトシ 河邊宮人カノヘノミヤノヒト 姬嶋松原ヒメノシマノマツノハラ

古事記コトワザノキ 仁徳ニトク 幸行サチユク 行ユク

萬葉考

全二十冊

外別記副

追々嗣出

天明五年子仲春發行
天明五年巳仲春求板

江戸書肆

柏原屋金兵衛

浪速書肆

柏原屋源兵衛梓

